



CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

## JICA ルサカ郡1次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト



2022年11月22日、ルサカ市内のインターコンチネンタルホテルで開催された「エビデンスに基づく病院データ管理ワークショップ」におけるグループディスカッションで参加者を支援するニャンガ専門家

プロジェクト対象5病院、保健省、州保健局、郡保健局と共に、エビデンスに基づく病院データ管理ワークショップを開催

JICA本部から佐野景子監事がチバタ総合病院を訪問

知っていましたか？

第一線で活躍する医療従事者のための救急医療3病院-UTH相互交流プログラム振り返り検討会を開催

州保健局はJICAプロジェクトと共に救急医療3病院-UTH相互交流プログラムの今後の展開について議論

PHOTO FOCUS プロジェクトの活動と広報担当スタッフの交代について





## プロジェクト対象5病院、保健省、州保健局、郡保健局と共に、エビデンスに基づく病院データ管理ワークショップを開催

エビデンスに基づく病院データ管理は、患者ケアの協調的な管理・運営に不可欠な正しい関連データへのアクセスのために重要です。その結果、意思決定を改善し、5つの総合病院における医療サービスの質を高めることができるからです。



エビデンスに基づく病院データ管理ワークショップで発表する原専門家

**エ**ビデンスに基づく病院データ管理ワークショップが2022年11月22日にルサカ市のインターコンチネンタルホテルで開催されました。ワークショップの目的は、ザンビアの病院に適した経営管理データについて意見交換すること、導入のためのロードマップを作成すること、そしてザンビアの他の病院への導入拡大を目指すことです。

ムワンザ局長は、保健省の品質保証・品質改善(QAQI)局長として、ザンビア政府が保健省を通じて、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を達成するために、世界の他の国々とともに変革の取り組みに着手してきたことに言及しました。しかし、その一方で、医療施設で提供される医療と、推奨される標準的な治療ガイドラインの間にギャップがあることが指摘されています。このような診療における不適切なギャップは、患者さんの予期せぬ転帰をもたらすこととなります。これに対処するため、保健省は、パフォーマンス向上と品質保証を打ち出すことで、質の高い医療サービスの提供を継続的に改善することに注力しています。

ムワンザ局長は、JICAはあらゆる面でパートナーであり、ルサカのヘルスセンターを一次病院にアップグレードするプロジェクトを通じて、ザンビアの医療システムの強化に貢献してきたと述べました。さらに、データの共有、分析、管理など、データを扱うすべての組織にお

いて、データの品質管理は非常に重要であると付け加えました。患者の医療記録を毎日扱う医療従事者にとっても重要です。この種のデータは機密性が高く、規制や厳しい保護措置が必要です。

さらに、データの質は医療機関にいくつかの利益をもたらします。より多くの情報に基づいた意思決定、患者ターゲット、患者・医師関係の改善、容易なデータ処理、高い収益性が含まれると述べました。データ品質が低ければ、不適切な治療、ボトルネックの増加、意思決定の誤り、従業員の不満など、さまざまな問題が生じます。

JICAプロジェクトの原専門家は、「日本における病院経営データ」と題し、日本の病院経営について、現状把握や新たな取り組みの進捗確認にデータをどのように活用しているか、自身の経験を交えて説明しました。プレゼンテーションは、病院を取り巻く経営環境の紹介、病院経営データの意義と目的、最後に日本の経営データ報告システムの事例紹介の3部構成で、病院幹部に対して結果の責任と提示データの検証を促しました。

最後に、法月チーフアドバイザーが、バランススコアカード(BSC)を通じて、あらゆる問題や病院の方向性を把握し、データを活用することは、各病院が患者へのケアの質を高めるために重要であり、そのデータは見える化されるべきであること、そしてJICAプロジェクトを通じて、我々は今後も病院の活動を支援していくことを伝え、ワークショップを閉会しました。



保健省のローズマリー・ムワンザ局長がワークショップでスピーチを行った



ルサカ州保健局のクリーヴ・ゴース長がエビデンスに基づく病院データ管理ワークショップで発表を行った



保健省のドミニク・サーシ氏がQAQIに関する発表を行った



エビデンスに基づく病院データ管理ワークショップに参加した対象病院、州保健局、郡保健局、保健省のスタッフ

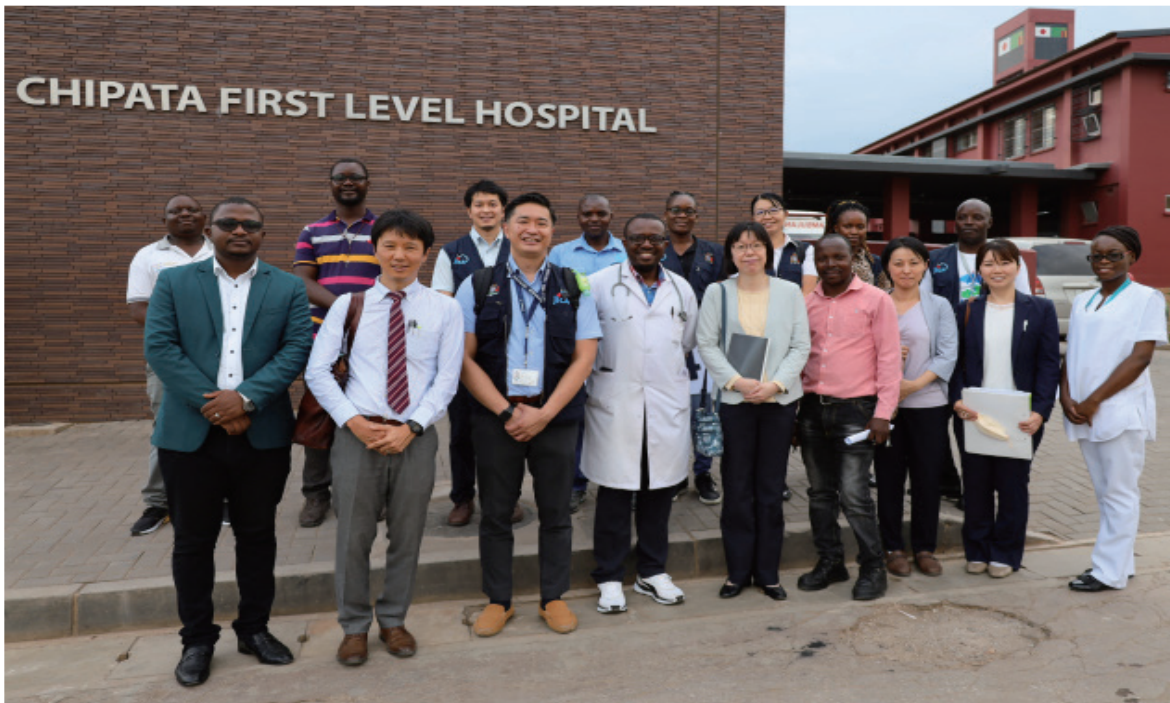


## JICA本部から佐野景子監事がチパタ総合病院を訪問

佐野恵子監事を含むJICAチームが2022年11月4日にチパタ総合病院を訪問しました。訪問の目的は、病院の運営状況、進行中のJICA活動の状況把握、病院が直面している問題点、プロジェクトの実施状況について確認することでした。チパタ総合病院のモーゼス マツタ院長は、診療所を病院に格上げし、幅広いサービスを提供できるようになったことについて、JICAに感謝の意を述べました。

マツタ院長の願いは、多くの人口に対応できるように病院のインフラを整備し、収入を得るために新たな計画を立てることです。さらに、NHIMA患者が外科手術を行う際、スペースがないために苦勞していることから、2階建ての建物を建設する計画もあるそうです。その後、佐野監事はプロジェクトのサテライトオフィスと、全ての人々が見ることができCassiopeia Nkaniが掲示されている掲示板に案内されました。

法月チーフアドバイザーは、病院のカウンターパートとの協力の重要性を強調し、病院の更なる発展を希望していると述べました。佐野監事は、チパタ総合病院の病院運営に感銘を受け、JICAはインフラだけでなく、技術協力が行われたことを誇りに思っており、将来さらに活気ある病院を見るために戻ってくることを望んでいると述べました。



*JICA Project Staff, Chipata General Hospital Staff and the visiting JICA Internal Auditors at Chipata General Hospital*

**知って  
いまし  
たか？**

**どうして病院データは病院運営管理に必要なのでしょうか？**

医療サービスのパフォーマンスは、病院システム内の様々な構成要素の協力と調整によって左右されます。したがって、病院の健全な経営には、適切な病院管理データが必要であり、これは病院や各医療部門の機能管理を支援することになります。

## 第一線で活躍する医療従事者のための 救急医療3病院-UTH相互交流プログラム振り返り検討会を開催



ワークショップの開会式でスピーチを行う州保健局のコンシティムワレ局長



検討会に出席した州保健局、郡保健局、UTH幹部と法月チーフアドバイザー

**J**ICAプロジェクトチームは、2022年11月24日にゴルフビューホテルで開催されたルサカ州保健局、JICA、CDC主催の第一線で活躍する医療従事者を対象とした救急医療管理に関する3病院-UTH相互交流プログラム(2022年9月開始)の振り返り検討会に参加しました。

州保健局のコンシティムワレ局長は、このプログラムの主な目的は、さまざまなレベルの医療現場で働く医療従事者の間で、救急医療と重症患者管理に関する知識とスキルの伝達を強化することであると述べました。また、医療従事者が救急部門や集中治療室をうまく立ち上げ、救急の成果を向上させ、命を救い、障害を予防できるようにすることでもあります。これにより、蘇生後の重症患者の一般的な管理が改善され、必要に応じて高次医療機関に紹介される前であっても、質の高い継続的なケアが実現される

でしょうと述べました。

同検討会で、州保健局クリニカル・ケア・スペシャリストのDr. ムシスカは、救急医療は病院や医療施設において重要な部門であり、質の高い医療サービスを提供することは、患者の転帰を良くするためのステップの一つであると発言しました。さらに、緊急時には時間管理が重要であり、それが患者さんの命を左右することもあると付け加えました。また、病棟で働くチームメンバーや病院の経営陣とのコミュニケーションも重要です。また、病院内のさまざまな部署が連携することで、コミュニケーションラインが形成され、紹介システムの改善につながることで、その結果、地域からのフィードバックが得られることを述べられました。Dr.ムシスカは、患者の転帰を改善するために、意思決定に使用できるデータの有用性を強調しました。

## 州保健局はJICAプロジェクトと共に救急医療3病院-UTH相互交流プログラムの今後の展開について議論

**ル**サカ州保健局(LPHO)は、JICAカシオペアプロジェクトと共に、第一線で活躍する医療従事者のための救急医療3病院-UTH相互交流プログラムを受けた、UTH-Adult病院、カニヤマ、チャワマ、マテロ総合病院の救急医療の今後の展開を検討するための会議を2022年11月29日に開催しました。

法月チーフアドバイザーは、開会のスピーチで、カシオペア・プロジェクトの概要について説明した上で、救急外来における病院の医療の質を向上させるための議論ができることをうれしく思うと述べました。さらに、これはザンビアの指導体制にとって良い例であり、将来的には他の病院にも拡大することを希望していると述べました。

州保険局長の代理としてスピーチしたDr. フランシス ムワベは、今回の会議で期待することとして、今後の方向性

を示し、参加者が相互交流プログラムを継続すべきかどうかを決定し、どの時点でプログラムが成功したといえるかを判断できるようになることを挙げました。

さらに、2023年に向けての具体的な計画を立てることで、現場の医療従事者の意識改革を促すとともに、ルサカ州の救急医療管理や患者のリファラルシステムに関するサービス全般を向上させることが可能になると言及しました。

会議では、UTH-Adult病院、カニヤマ、チャワマ、マテロ総合病院が、病院の進むべき道と来年度のアクションプランについて発表を行いました。

法月チーフアドバイザーは、病院の機能を明確にした上で、アクションプランにタイムライン、責任者を記載し、患者の救命とリファラルシステムの中での役割を明確にした上で、救急外来における標準的な治療を整備するよう促しました。

最後に、参加者は、このプログラ

ムの重要性を理解し、継続した上で、チレンジェ、チャワマを含む3病院に展開することを決定しました。



ジョージア チボウェ州保健局看護部長が開会の挨拶



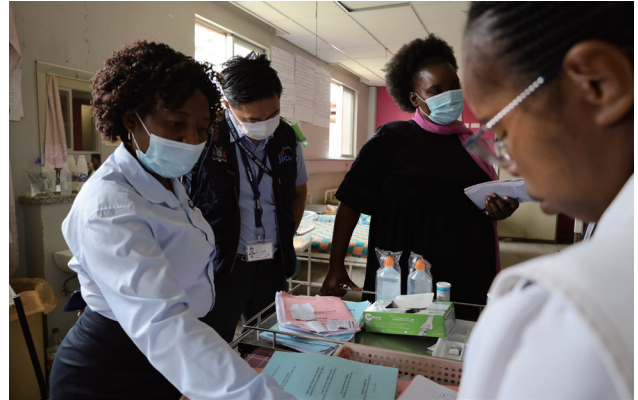
チャワマ病院のスタッフが議論



## PHOTO FOCUS



QITトレーニングで、データに基づく病院運営管理の重要性を強調するニャンガ専門家



法月専門家がマテロ病院の外来を視察



塩田専門家がカニヤマ病院の臨床工学技士と医療機材管理について議論



カニヤマ病院の薬局長が中心となり、薬剤倉庫での5S活動を実施



編集・デザイン: エレン ムティナ チピリピリ  
編集長: 法月正太郎

連絡先  
法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,  
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,  
ZAMBIA

E-mail: [cassiopeia.project.zm@gmail.com](mailto:cassiopeia.project.zm@gmail.com)  
Website: <https://www.jica.go.jp/project/>

新たに勤務を開始した広報担当プロジェクトスタッフのエレン ムティナ チピリピリ